

「健康で心豊かに長生きをしましょう。」

平成 30 年 10 月 30 日
村山 章

京都大学特別教授の本庶佑先生への 2018 年のノーベル医学・生理学賞の受賞が決まりました。その研究は、数年前から話題になっている「オプジーボ」の開発につながっています。3 年近く前の読売新聞で、新しい癌免疫治療薬「オプジーボ」が一部の癌の保険診療で適用可能になったと報じられました。その記事では、優れた延命効果を示すものの治癒を得ることは難しく、1 年間使用した際の薬価は約 3,500 万円と極めて高いものの、高額療養費制度によって患者の負担額は月に数万～数十万にとどまり、残りは税金や保険料で支払われると記されていました。ただ、75 歳の肺がん患者に年間 3,500 万円をかけて 76 歳に延命する治療をどう考えるべきか問題提起をしていました。一方、先日、ノーベル賞受賞が決まった直後、妻子がおられる 35 歳の男性が、本庶先生を命の恩人と称えておられました。「オプジーボ」のおかげで 35 歳と若い年代の男性が重い癌から解放され、元気に働けるようになったとしたら素晴らしいビックニュースです。

私達の体には毎日 3,000～5,000 個の癌細胞が発生しているのですが、免疫細胞がこの癌細胞をやっつけてくれているそうです。しかし、癌細胞も増殖しながら、さまざまな手段で免疫細胞からの攻撃を回避しようとします。こうした攻防の際に、癌細胞のある働きをストップさせ、免疫細胞の本来の力を発揮させる薬が「オプジーボ」です。薬価もだいぶ安くなったようで、高額療養費制度の活用により 1 か月約 8 万円という報道もありました。

しかしながら最も理想的なのは「オプジーボ」のお世話にならなくて済むことです。そのためにも心身を活性化させて自己調節機能を高め、免疫細胞を活性化させて、毎日 3,000～5,000 個も生まれてくる癌細胞をやっつけてもらいましょう。当社の仕事が自己調節機能をより高め、免疫細胞をさらに活性化させるために少しでも役立てば幸いです。